



女性が活躍できる文化 「男性 100 人アンケート」 アンケート結果の概要

6月1日～20日に実施したアンケート調査の結果を発表いたします。ご協力ありがとうございました。

(女性%は昨年秋の調査データです)

	男性 %	女性 %
Q1 「働く女性たちのストレスは沸点を超えている」	48	47
Q2 「アメリカの現状は日本と似ている」	51	50
Q3 男女の扱いについて「男女の特性に考慮した結果的平等」	68	65
Q4 「日本はやがて女性の問題を解決する」	78	54
Q5 「諸国に比べ女性の社会進出が少ない」と言われる原因		
① 長時間労働	48.1	26.9
② 男は外で仕事、女は家庭でという文化、考え方に根差す	39.7	56.6
③ 育児と両立しない	33.4	63.2
④ 勤労に応じた報酬が得られない	28.5	45.4
Q6 「諸国に比べ長時間労働が多い」と言われる原因		
① 先に帰りにくい職場の雰囲気	62.4	52.6
② 生産性の悪い勤務環境	57.8	50.7
③ 長時間勤務しないとこなせないほどの仕事量	35.4	44.1
④ 残業代のため	26.8	15.1
Q7 「女性の進出への解決策として有効と思われるもの」		
① 社会の意識改革	73.6	84.9
② 企業の生産性向上	35.5	32.9
③ 法的義務化	32.7	26.3
④ 人手不足	31.4	22.4

アンケート結果について

現状認識については男女差が殆どないのに、女性のほうが将来について悲観的なのは、社会進出が遅れている理由について、女性は「育児との両立」と「報酬が不当に安い」の2点を指摘しているのに、男性はこれらの点への理解が不足しているという結果で大変解りやすい。

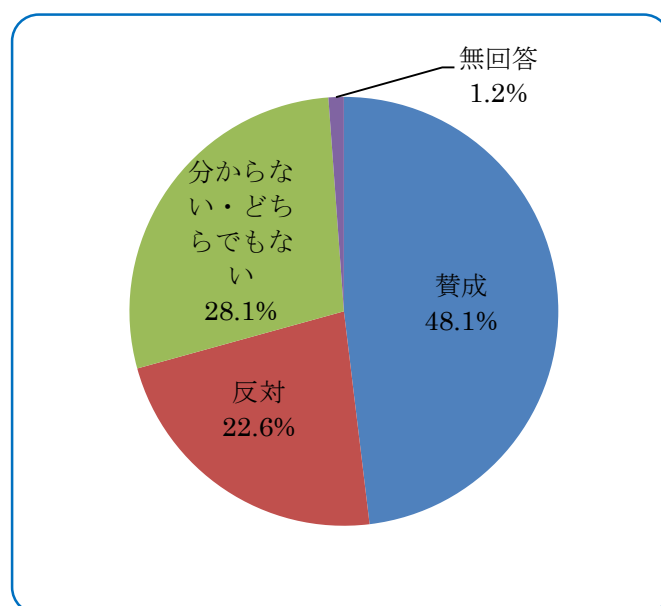
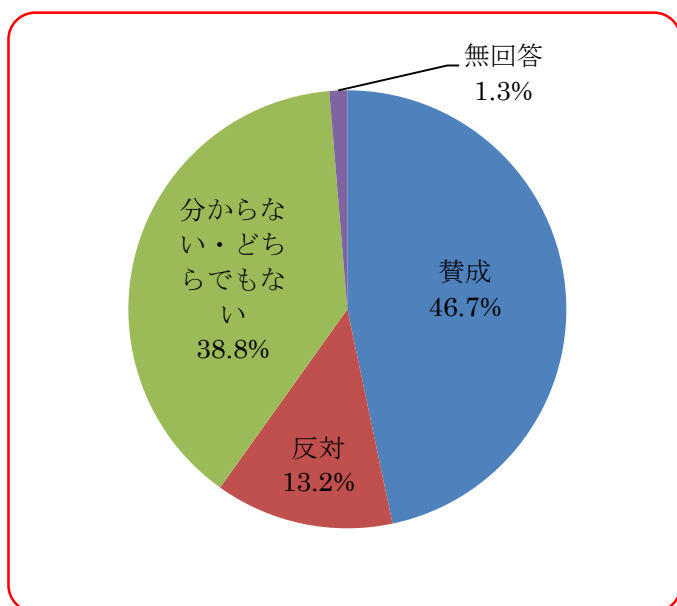
「育児との両立」がはかれる環境作りと同一労働・同一賃金が重要ということではないのか。

稲葉 陽二 日本大学法学部政治経済学科・大学院法学研究科教授
(専門 日本経済論、ソーシャル・キャピタル論)

調査結果とコメント：（前回の女性回答は赤枠 今回の男性回答は青枠）

（未来を創る財団 パブリック・コミュニケーション部門 作成）

Q1:「働く女性たちのストレスは沸点を超えている」に賛成ですか？

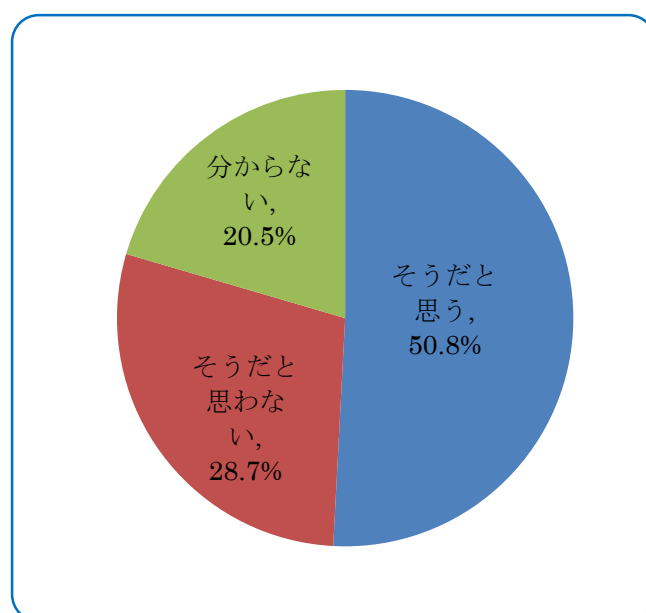
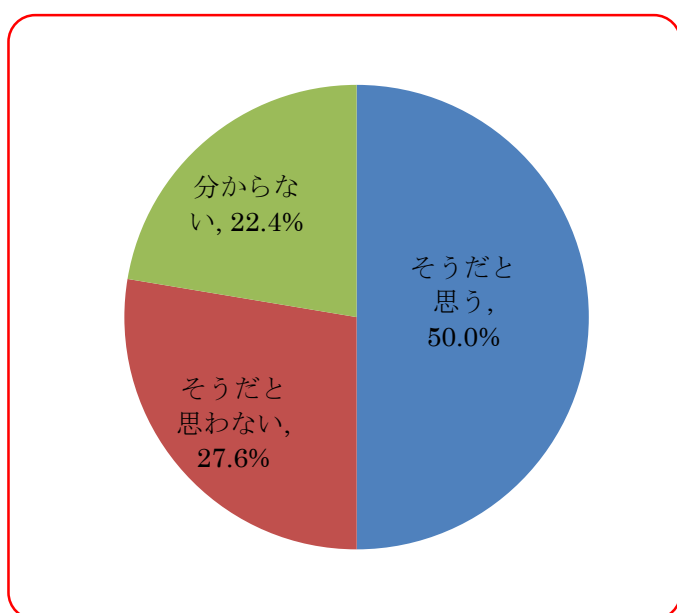


賛成は男女とも半数近くでほぼ同率。

沸点に達する、に理解を示す男性が女性と同じ比率で存在することは、改革が勇気づけられる。

反面、男性で賛成の半分近い反対論が見られる点、女性の労働参画が基本的に不十分である、能力が生かされていない、十分な評価が得られていない、参画には大きな負担を伴う、などの現実に対する理解が十分に行き渡っていない面に注意を要する。

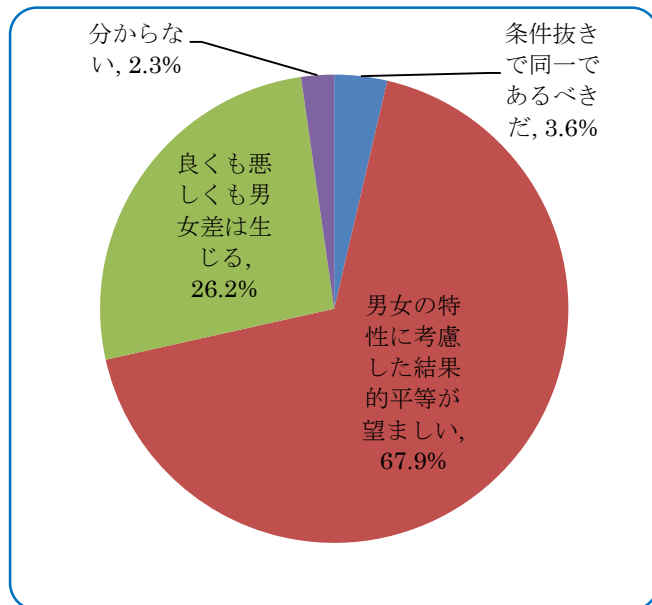
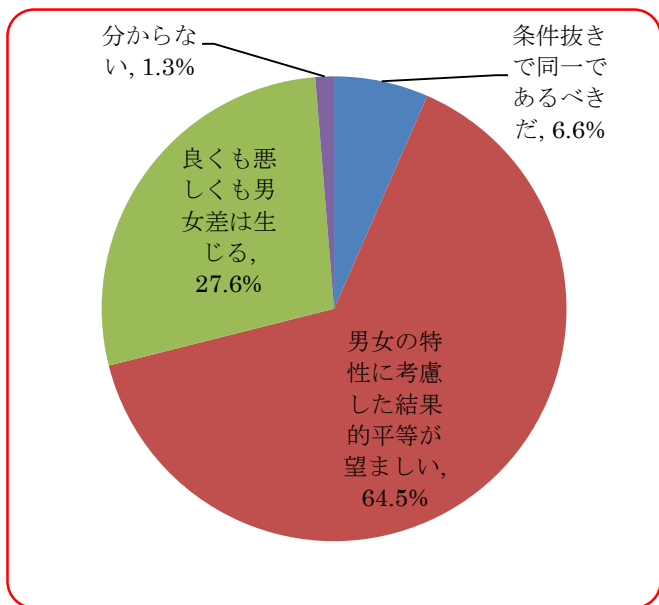
Q2:アメリカの現状は日本と似ているとするこの見方に同意しますか？



この問いに対する回答には男女差がない。女性問題に関して米国の方が進んでいる、という認識があったと思われるが、現状認識が進化していることが窺える。

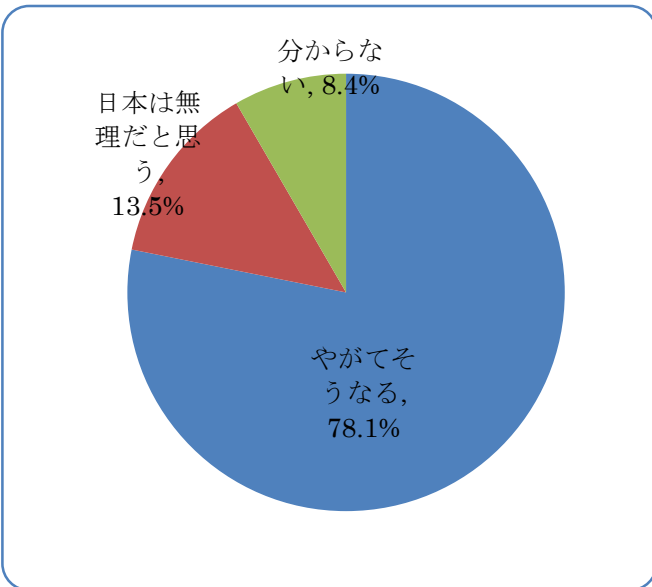
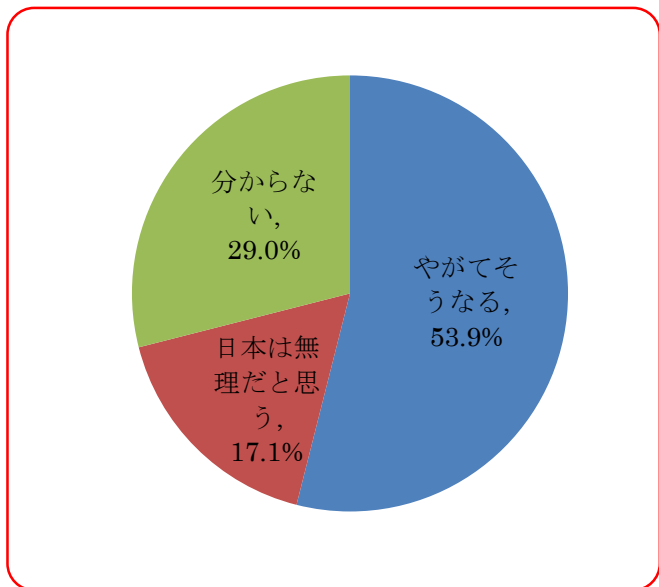
* ダボス会議を主催している世界経済フォーラムの調査:世界男女間格差ランキング 2014 で日本は主要国最低の104位とされる。その他の調査でも女性役員比率、女性国会議員比率などで日本はつねに最下位グループ。

Q3:男女の扱いについて



この問いの回答に男女差はない。この点、社会的なコンセンサスと見られるが、平等の中身が男女一致しているか、今後検証が必要である。

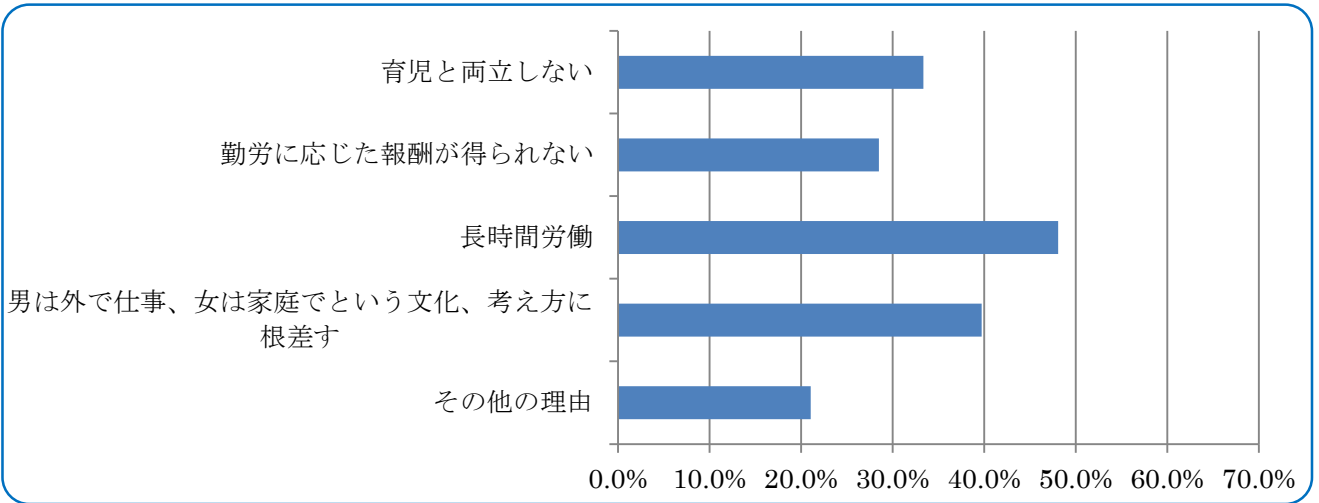
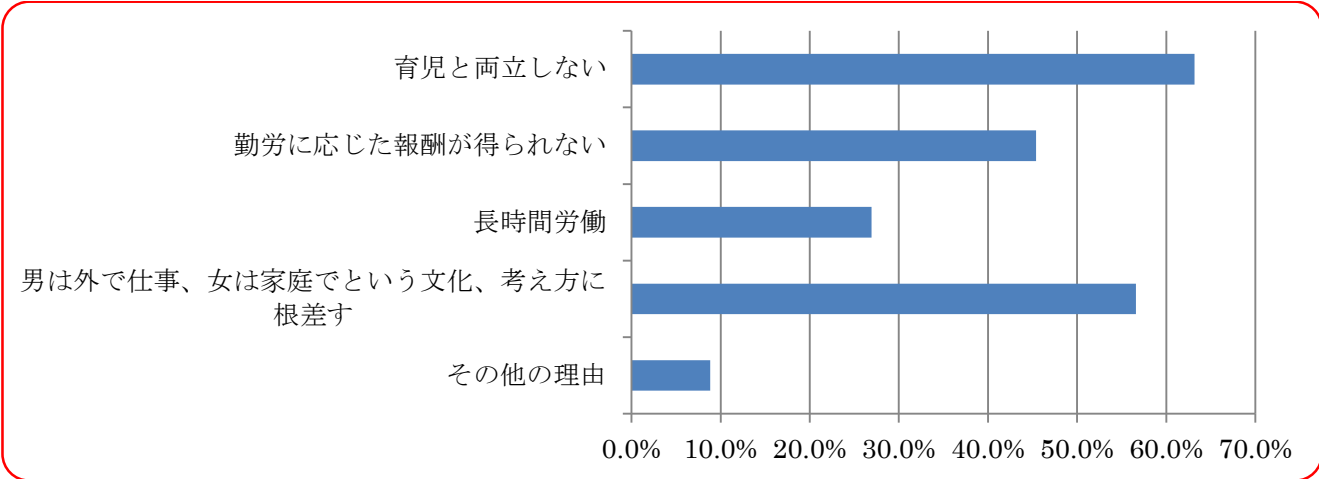
Q4:「日本はやがて女性の問題を解決する」この楽観論を肯定しますか？



8割近い男性が楽観している反面、半数近い女性が分からない、日本は無理、と懐疑的である。“沸点”に反対意見の男性(28.7%)の多くも楽観論に賛成のはずだ。

女性が負っている負担に対する理解に、男女間の温度差があることを物語っている。

Q5: 諸国に比べ女性の社会進出が少ないと言われていています。その原因は？(複数回答あり)



当事者である女性の意見は「育児と両立しない」「文化に根差す」に集約される。

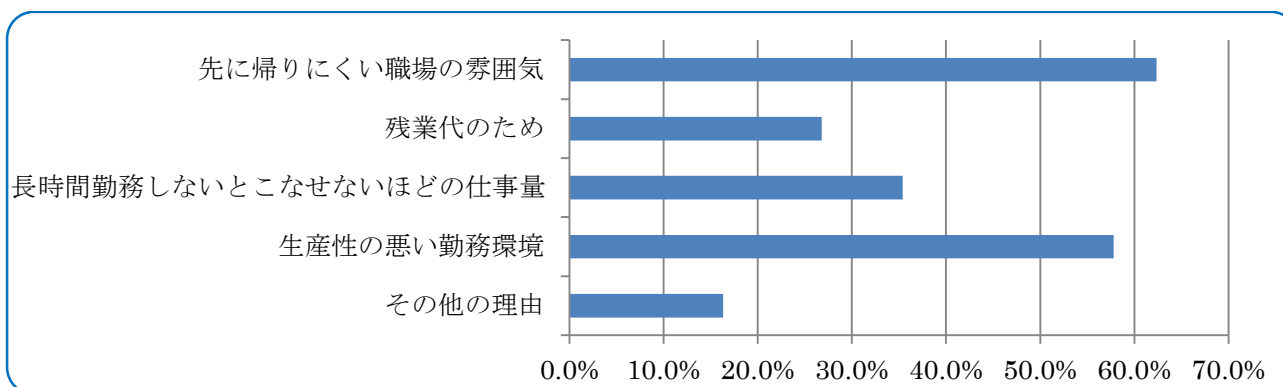
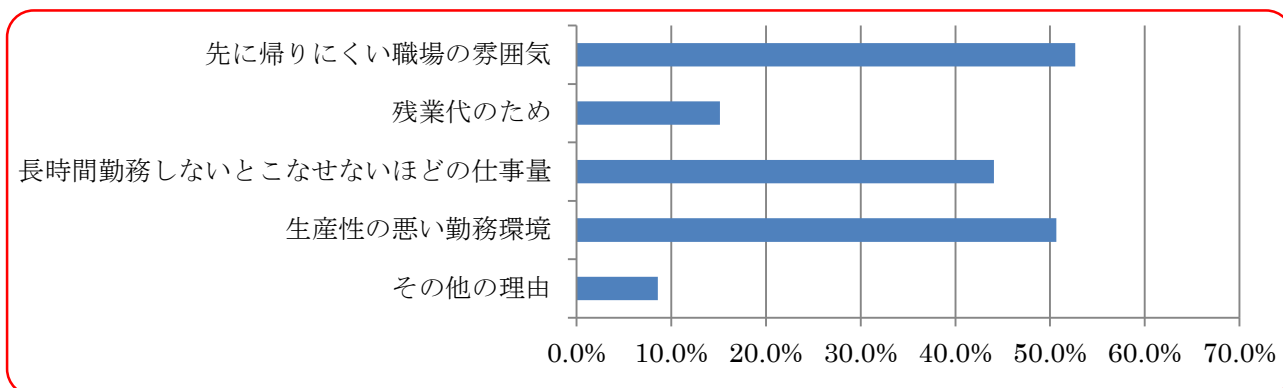
男性の意見は各項目に分散されている。なにが問題か、女性労働の実態を十分理解できていない可能性を否定できない。

男性回答のトップが長時間労働を理由としているのは、男性自身が長時間労働に耐えていることを物語っている。

また女性で 45%に達する「勤労に応じた報酬が得られない」の回答に男女差があるのは、多くの職場で、女性労働の位置づけ、育成プログラム、評価システムなどが、男性には違和感がないもともと男性労働を基準にしたものであったことが遠因ではないか。

この問題の解決には、社会全体の「労働評価システム」の構築が不可欠といえる。政府が行いつつある当面の政策ではカバーしきれない長期的課題である。

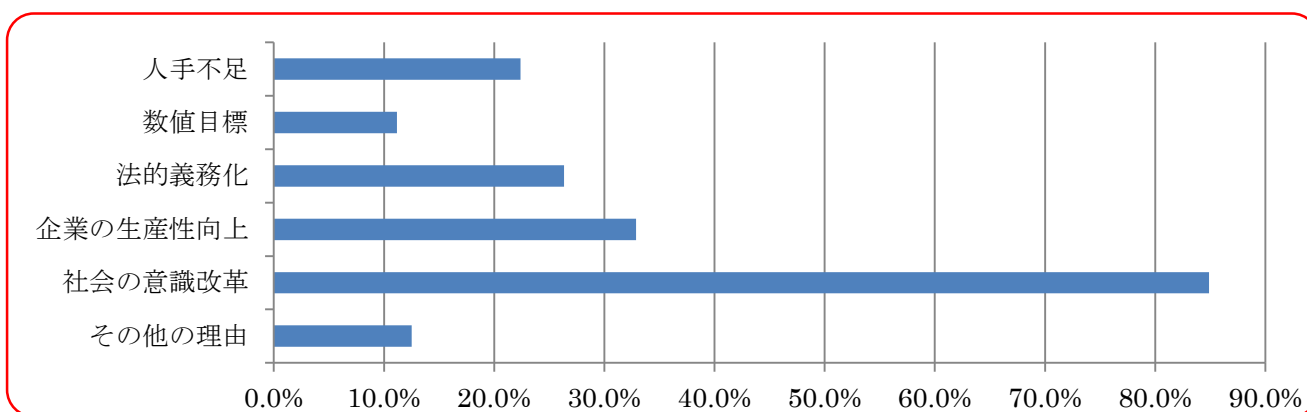
Q6: 諸国に比べ長時間労働が多いと言われる原因について（複数回答あり）

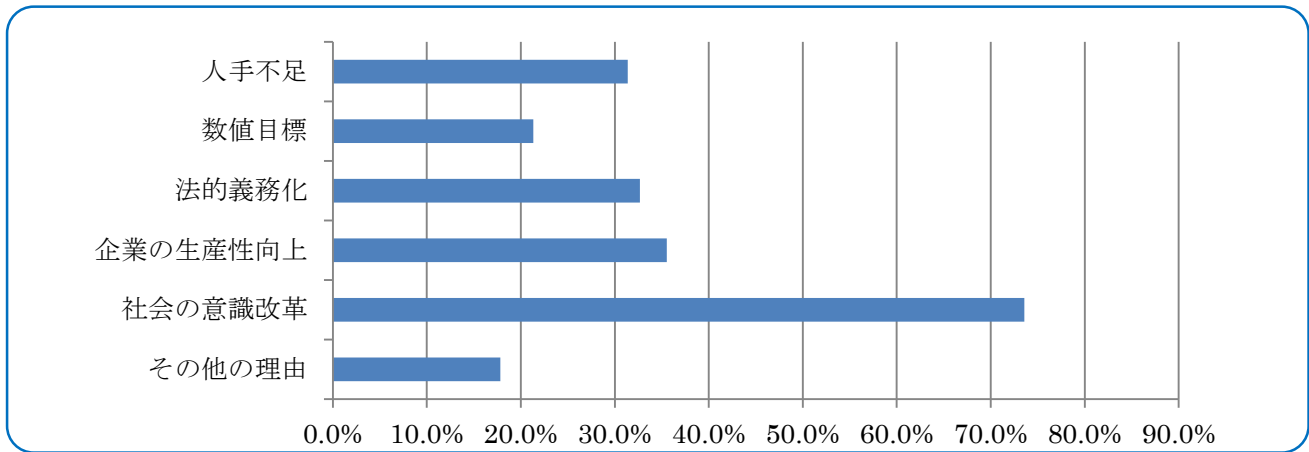


女性の回答では3大問題点が鮮明であったが、男性の回答では「職場の雰囲気」と「生産性の悪い勤務環境」の2点に絞られた。これは男性自身の職場体験からくる実感に近いと想像される。

「意識の改革」と「オフィスの生産性改革」は、男女の別なく共通の課題として、社会が取り組むべき最重要テーマである。

Q7: 女性の進出への解決策として有効と思われるものは？（複数回答あり）





男女を問わず、圧倒的多数の意見として「社会の意識改革」の必要性。ここまで多くの方が同じことを考えている問題は皆無ではないか。社会として手をこまねていることが 104 位に終わっている原因かもしれない。

ご意見の一つにあった『女性が活躍できる能力は男性と同等。ただし、その中に子育て能力を含む。これは男性にはない能力』は核心をついている。平等は中身が問われる。世界の男性はこれになんと答えるだろうか？

アンケート意見: 回答者の全ご意見 127 をホームページ <http://goo.gl/aGMZcn> に掲載しています。
アンケート質問本文: ホームページ「テーマ&ネットワーキング」<http://goo.gl/Vhi0hB> でご覧ください。

この調査は、未来を創る財団の設立 1 周年記念事業の第二弾として企画しました。
アンケート調査の各項目は、未来を創る財団が発行するニュースレター For Ladies 第 1 号「女性が活躍できる文化ー女性先進国へむけてー」大江紀洋氏(WEDGE 編集長)をもとに、執筆者のご了解を得て女性が活躍できる文化」について当財団のパブリック・コミュニケーション部門で作成し男性に対する 7 つの質問に回答いただくかたちで行いました。(女性へのアンケート結果 <http://goo.gl/Ea2eNL>)

期 間: 2015 年 6 月 1 日～2015 年 6 月 20 日
方 法: メール、郵送およびインターネット・アプリケーションによる男性への質問
発信数: 直接発信数 約 250 件 (紹介者を介した) 間接発信数 推定 200 件
回答数: 173
回答者の地域: 首都圏を中心に一部関西圏その他の地域など主として都市圏
実施者: 一般財団法人 未来を創る財団

ご協力ありがとうございました。当財団のニュースレターは、未来を拓く提言を発信します。ご意見、賛同、助言、ご提言を財団までお寄せください。

一般財団法人「未来を創る財団」事務局 パブリック・コミュニケーション担当
abrighterfuture@theoutlook-foundation.org
<http://www.theoutlook-foundation.org/>